

《横浜市感染症臨時情報》風しん第18報

風しんの流行が継続しています。

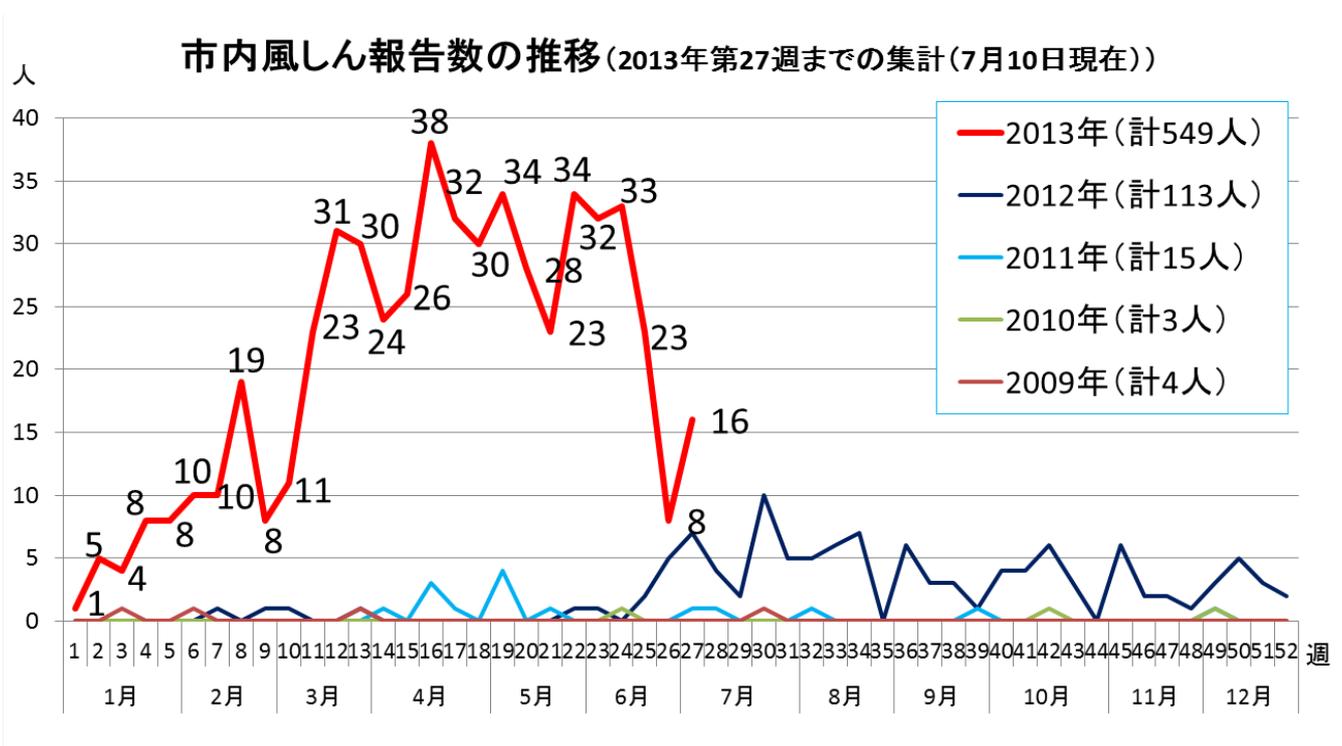
- ◇ 全国では「**先天性風しん症候群**」の報告が続いています。
- ◇ **妊婦、特に妊娠初期の女性**が風しんに感染すると、赤ちゃんにも感染し、白内障、先天性心疾患、難聴などを主な症状とする「**先天性風しん症候群**」にかかってしまうことがあります。
- ◇ 流行の中心である、20～40歳代男性の予防接種が流行阻止に重要です。特に、**妊婦さんと接する家族や周囲の方(友人や職場の同僚等)**は、予防接種を受けましょう。
- ◇ 「**妊娠を予定・希望している女性**」、「**妊娠している女性の夫**」を対象に予防接種の助成※を実施しています。

※ 横浜市の風しん予防接種助成の詳細(横浜市保健所:緊急風しん対策について)

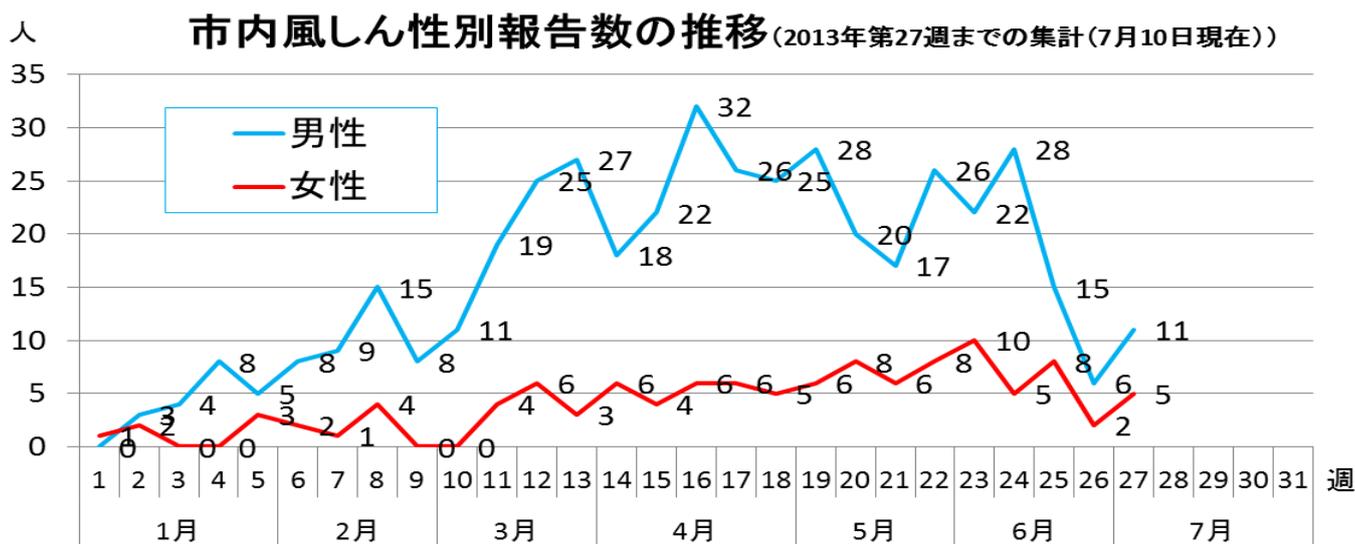
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html>

風しんの主な症状は、発熱とほぼ同時に出る発疹、耳の後部のリンパ節の腫れなどです。3日前後で解熱とともに発疹も消失します。気になる症状が現れたときには、必ず受診し、きちんと診断を受けましょう。

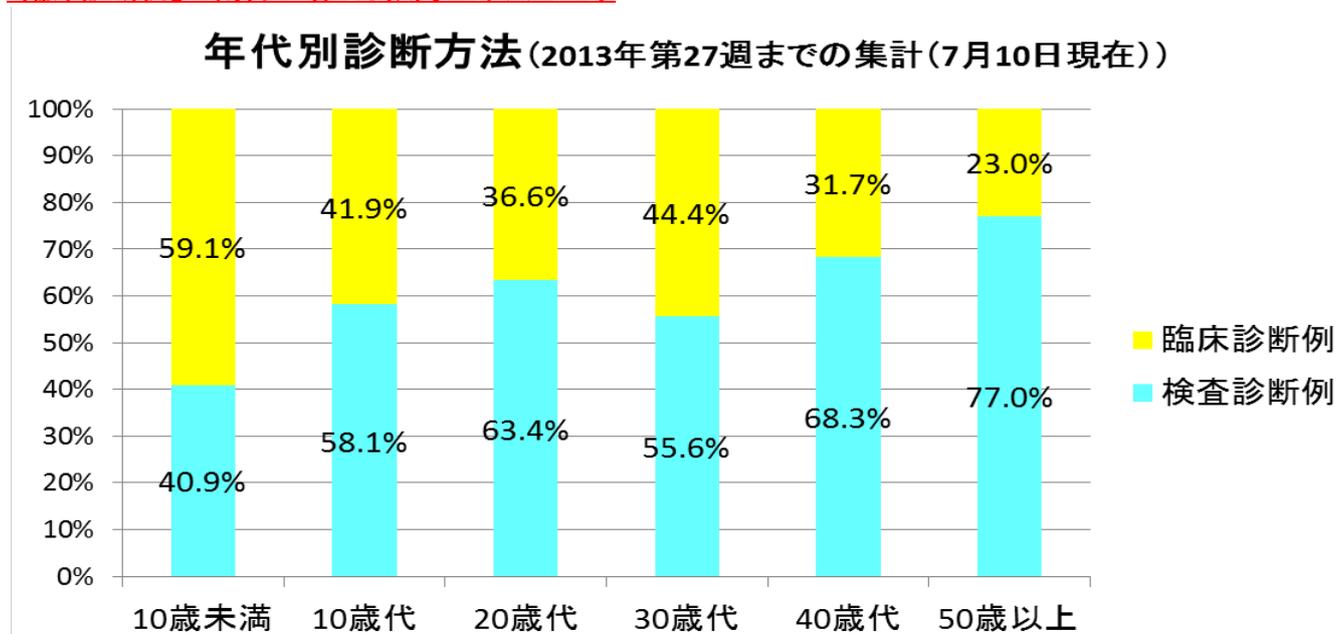
- 1 市内流行状況:今年の初めから第27週(7/1～7)までの患者報告数累計が549人となりました。第26週では16週ぶりに週当たりの報告が20人を下回りましたが、依然として毎週の報告が続いています。



2 性別割合の推移:第 25 週以降男性患者数が減少傾向ですが、依然として報告の中心は男性です。



3 年代別診断方法:風しんの届出は、血清 IgM 抗体の検出など検査結果から診断された「検査診断例」と、臨床症状のみからの診断による「臨床診断例」の 2 つに類別されます。年代別にみると、年代が下がるほど、「臨床診断例」の割合が増える傾向がありました。



4 先天性風しん症候群の発生について:市内では、検索できる 2006 年 1 月 1 日以来報告はありません。全国では第 27 週に千葉県で新たに 1 件報告され、第 25 週の東京都 1 件、第 23 週の同じく東京都 1 件と、継続的に報告されています。今年に入っての報告数は計 8 件(東京都 3 件、愛知県 2 件、神奈川県(相模原市)1 件、千葉県 1 件、大阪府 1 件)となりました。なお、風しんの大きな流行がみられなかった 2010 年は 0 件、2009 年は 2 件、2008 年は 0 件の報告しかなく、今年の報告数が非常に多いことが分かります。

任意予防接種の助成

横浜市では、平成 25 年 4 月 22 日から 9 月 30 日まで、19 歳以上の横浜市民で、「妊娠を予定・希望している女性（注：妊娠中は接種できません、接種後 2 か月は避妊をしましょう）」、「妊娠している女性の夫(婚姻関係は問いません)」を対象に麻疹風しん混合(MR)ワクチン 1 回分の助成を行っています。詳しくは[横浜市ホームページ](#)をご参照ください。

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課

TEL 045(671)2463

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL 045(754)9815